

No.157

公民館だより

平成28年7月

宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

在職十年を振り返る(八)

由良地区公民館長 枝川 隆 亮

◎平成二十五(二〇一三)年

約七十年間、地区内の行事などで活躍されてきた由良婦人会がこの年三月いっぱい解散しました。

公民館の文化祭で、ぜんざい、うどん販売で大活躍をしていただいており、今年から中止になると販売を断念していましたが、地区のボランティア女性たちの方々が手を挙げてくれて無事販売する事ができました。食券の販売は、以後、自治会で世話になっています。

長年続いている子どもものびのび体験活動「子供料理教室」も二十七名の参加を得、開催でき

ました。

ここでこの活動の経緯を探ってみましょう。

二〇〇〇(平成十二)年、国の方針で、平成十四年度から実施される完全学校週五日制に向けて土曜・日曜など休日に、多彩な地域活動の機会や場所を提供し、子どもたちが魅力的な体験活動ができる環境を作るように市教育委員会からの要請を受け始められました。

由良子供会連絡協議会との共同開催で実施されてきています。

この年は「子ども地引網体験」活動を実施。約一〇〇名の親子が参加、子どもたちは、由良の

過去の生活の一部を学ぶことができました。

この年から毎年、食改グループ(宮津市食生活改善推進委員協議会)の委員の協力で「子ども料理教室」が実施できています。

幼稚園児、小学学童を対象としています。この頃はまだ児童数が多く平成十四年と十五年は二回に分けて実施しています。

子どもものびのび体験活動も平成十五年には京都府の「京の伝統工芸品活用推進事業」を活用して「京鹿の子紋」の製作と染に小中学生が挑戦しています。

平成十六年には大宮町の丹後織物工業組合を訪ね、「繭」の学習のあと染色体験をしました。

平成十六年までは料理実習、以後はクリスマスケーキ作りに挑戦しています。

十二年目を迎え、昨平成二十七年には、学童たちに「餅つき」を体験させるため、公民館開設以来「餅つき大会」を実施できました。

◎平成二十六(二〇一四)年

五月二十五日には、宮津警察署に依頼し「交通安全・防犯教室」を開催しました。

管内での交通事故や盗難事故多発の説明、「振り込め詐欺」への対処方法について詳細な説明を受けています。

夏休みを利用して、山形県鶴岡市由良から「蜂子皇子、由良湊より出港」の伝説に因み、訪問団の来訪を受けました。

台風の影響で京都府北部地方は記録的な豪雨に見舞われ、高速道の閉鎖や由良川の氾濫、福知山市街地は多くの場所で冠水しました。

この影響でルートを変更し来訪が大幅に遅れました。

丹後からは「奉納太鼓」を披露しておもてなし、庄内からは「花笠音頭」でおかえし。

二日間、両地方は友好ムードのなか予定の行事が消化できています。(以下次号)

行事報告

主事 千坂 幸雄

◎由良ヶ嶽登山

四月二十九日(金) 昭和の日

昨日の午後十時頃まで雨が降っている状況で実施が危ぶまれましたが、当日は、曇り後晴れの天気予報、分館長と協議して実施することにしました。

午前八時三十分「はまの子グランド」に集合。公民館長の開会あいさつの後、ラジオ体操をして登山を開始しました。

参加者数は九十三名、例年よりも少ない人数になりました。しかし、小学六年生以下の年齢の子どもの人数は二十六名で多くの参加がありました。子どもが多かったという事は一緒に来られた親の方が多かったことになりまます。大人のグループが少なかったのではないのでしょうか。

昨日の雨のせいでしょうか。由良以外の方への連絡手段があればいいのですが。

山道は、昨日の雨でぬかるんでいる所も少しありましたが、歩きづらいほどでもなく、みなさんしつかりした足取りで登って行かれました。

四月十日には、ツツジが満開でしたが、ツツジも散って新緑が目に見えるくらいに美しさでなっているように感じます。

八合目にある一杯水は、滝のように流れていました。足を止めておいしい水を飲んでおられる方が目立ちました。

東峰でしばらく雨に降られて寒い中で弁当を食べておられる家族の方には大変だったろうと思います。登っている最中は汗をかくくらいなのですが、山頂でゆっくり弁当を食べたり、景色を眺めたりするときには、天気が悪いと寒さを感じます。

西峰では、雨もやみ晴れ間がのぞいたこともあり、栗田地区から宮津・天橋立・府中地区・

日置地区・伊根湾まで見渡すことができました。

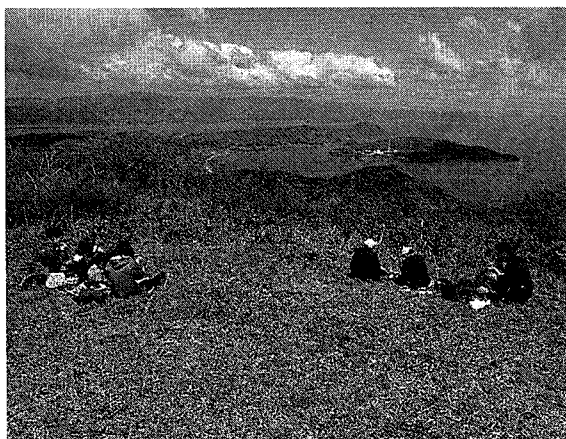
自分の家のある方向に向かって家族に叫んでいる方もいました。由良駐在さんが、奥様と小さい子どもさんと一緒に登られました。ハイキングくらいのものだと思われていたようで、「本格的な登山で大変でした。」と驚かれています。西峰に来てよかったですと話される方がたくさんおられました。

由良ヶ嶽の高さは、西峰の六四〇mが一番高いところと言われてきましたが、国土地理院地図で高さを調べてみると東峰が一番高いところが、六四六・四mと出てきます。

四月十日、有志の方五名で国民宿舎からの山道整備をしました。四月二十日、公民館職員・由良自治連合会・由良観光組合・松寿会、計十九名で東峰から西峰まで倒木除去作業と除草作業を行いました。大変お世話になりました。

年間登山者数千名を目指して、これからも伝統ある由良ヶ

嶽登山を続けていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



◎由良地区健康広場ウォーキング

○二月のウォーキング

二月二十八日(日)

元伊勢内宮・外宮ウォーキングを実施

参加者数は男子7名、女子21名 計二十八名

天候は晴れ、二月とは思えない春日和になりました。八時二十分に二十七名の方が丹後由良駅に集合しました。(二名は栗田の方) 六五歳以上の方は片道二〇〇円です。八時三五分発乗り換えなしで内宮駅まで乗車しました。(栗田駅から一名乗車) しばらく歩いてみると案内所があったので観光地図をいただきました。内宮は山を少し登ったところになりました。神殿は歴史を感じ、厳かにたたずんでいました。樹齢千年以上の杉のご神木がありました。

外宮に向かう途中、和紙を作っているところがあり、楮やミツマタを見せてもらい、勉強になりました。

外宮参拝後、全員で記念撮影、観光で訪れていた青年にシャッターを押していただきました。

大江駅に向かう途中では、和菓子屋さんへ寄って大福もちを買いました。

大江駅でおにぎりとお茶を配っていただいて食べました。ウォーキング後のおにぎりは大変おいしいです。

大江駅発十二時四十一分まで帰ってきました。



○三月のウォーキングと体力測定

三月二十七日(日)

参加者数は男子七名、女子十一名 計十八名
天候晴れ、ウォーキングは山

小屋コースでした。桜はつぼみが固い状態でした。体育館に戻ってきたときには、体がポカポカ温かくなっていました。

今回の健康広場は、体力測定です。健康福祉室の職員から説明をしていただきながら行いました。

六十五歳以上と六十四歳以下では三種目実施種目に違いがありました。六十四歳以下には、立ち幅跳び、反復横跳び、シャトルランがありました。私も行ってみましたが大変きつく感じました。普段から運動することの大切さがよくわかりました。

六十五歳以上には、片足立ちバランス、障害物越えウォーク(スピード)、六分間ウォーク(持久力)がありました。

結果につきましては、職員の方に出していただいて後日知らせていただくことになっていきます。

○四月のウォーキング

四月二十四日(日)

参加者数は男子二名、女子十名 計十二名
由良地区内ウォーキングコー

ス「山小屋コース・浜コースのミックス」四・五キロメートルをウォーキングしました。

歩数五三六〇歩

参加された皆さんは、竹の子がとどころから出ているのを発見して話に花を咲かせていました。浜の風は少し肌寒さを感じましたが、歩いていると気持ちよさを感じました。

○五月のウォーキング

五月十五日(日)

才の神の藤ウォーキングを実施

参加者数は男子七名、女子十九名 計二十六名

天候晴れ、気温二十七度、風は由良出発時には強く、現地では微風でした。ウォーキングには暑い環境になりました。

京都丹後鉄道、六十五歳以上片道二〇〇円を利用して、丹後由良駅から大江高校駅まで乗車しました。由良駅九時一分発、宮津駅で乗り換え、宮津から二名、栗田から二名の参加がありました。喜多から辛皮間三十二名の乗車でしたが、一両編成で二十七名の席でした。

大江高校駅から途中「あしぎぬ大雲の里」に寄り、おにぎりとお茶を配っていただき、トイレを済ませて才の神の藤を目指しました。大江高校駅から約一時間三十分で到着、到着時刻は十一時三十分でした。

藤の花は少し残して散っていましたが、散った花びらが地面を紫に染めていました。樹齢二千年の藤は神々が宿る木にふさわしく畏敬の念を抱かせられました。おにぎりを食べて帰り道出発、帰りの駅は大江駅から乗る人と大江高校駅から乗る人に分かれました。道の横には多種多様な花が咲いていて心を和ませました。ストロベリーキャンドルの花畑もその一つです。普門寺では、白い藤を見ることができました。

歩行距離 十四、三八 km
 歩行数 一七〇五五歩
 最年少六十一歳
 最高齢八十歳
 よく歩きました。



オの神の藤



ストロベリーキャンドルの花畑

由良ヶ嶽登山意見箱

山小屋に設置している意見箱の中の意見書を点検しました。ご意見の一部を紹介いたします。

○平成二十五年五月十四日

無事登頂しました。急坂が続き、高齢の私にはややきつい登りでしたが、体に鞭打ってやり遂げました。山頂からの眺めは絶佳、登頂してよかったです。

登山証明書いただきます。大変な心配り、誠にありがとうございます。機会があれば、又、登りにまいりたいと思います。

滋賀県在住の方より

○平成二十五年十一月二日

東峰と西峰の眺めは素晴らしいものでした。また、案内図や道標も整備されていてレクレーションに最適の山だと思います。

千葉県柏市の方より

○五月七日

奈良バス・ハイク

三十名(添乗員四名を含む)十一時三十分登頂します。十五時三十分下山完了。ありがとうございました。また、おじゃまします。

奈良交通の方より

○平成二十七年九月二十一日

三重県から来て登山させていただきました。

(警察署の登山届をインターネットから印刷して、それに記録して入れていただいています。)

○平成二十八年三月末

なかなか良い山でした。道の整備ありがとうございます。北海道もなかなか良い山がありますのでお遊びにいらしてください。

北海道小樽の方より

平成二十八年度を終えるにあたって

迎えて

宮津市立栗田中学校 校長 細見 晋一

栗田中学校に赴任して三年目になります。昨年度は、由良公

民館の関係の皆様を始め地域の

皆様には、本校教育に絶大な

御理解と御支援を賜り誠に

ありがとうございました。平成

二十八年度は、全校生徒六十二

名(由良地区十五名)でスター

トしました。昨年の同時期より

三名減になります。部活動は野

球部、バレー部、ソフトテニス

部(男女)の計四つに一年生が

入部し、意欲的に活動してい

ます。先輩が生き生きと後輩であ

る一年生に優しく教えている姿

を見ることができて、嬉しく思

いました。今年も良いスタート

が切れたと喜んでいきます。

今年度は昨年度同様に、生徒

が『自信と誇り』の持てる栗田

中学校にしていきたいと思つて

います。加えて、『人に優しく、

チャレンジする生徒』になるよ
う取り組んでいきたいと思いま
す。

まず、十六人の三年生がリー
ダーらしく自信を持って学校を
牽引できるよう支えていきたい
と思います。生徒会本部をはじ
めとする各リーダーが昨年度末

の卒業生を送る取組から、今年
度の新入生を歓迎する取組など
工夫を凝らし取り組んでくれま

した。その三年生と活発な二年
生と堅実な一年生が、各学年の
よさを共有し、一つとなつて、

生徒会・委員会活動、部活動や
陸上の大会でその能力を発揮で
きることに。そのような学校にな

るために、教師が励ましたり褒
めたりしながら適切に評価し、
生徒に成功体験をたくさんさ

せ、自己肯定感や自己有用感を
育てることが重要であると考

ます。

ゴールデンウィーク中に開催
された若丹バレーと宮津与謝野
球連盟会長杯では、勝ちには繋
がりませんでした。チームと
して成果と課題が確認できた試
合になりました。

また、五月七日に行われた阿
蘇海一周マラソン大会(駅伝形
式)では、目標を達成すべく練
習の段階から、栗田中学校の

チームが一つの目標に向けま
まることができた大会になり、
今後も自分を高めチームでま

まるにはどうしたらよいか、大
会に参加できる喜び等机上では
味わえない様々な体験をし、各

部活動の大会や陸上の大会で活
躍してくれることを期待したい
と思います。

一方、学習面では、まずは教
師が授業力を向上させるため
に、気軽にお互いが授業を参観

し、生徒が自主的に授業に向か
うにはどのような働きかけをし
たらよいか交流し、生徒の学び

を深めるとともにやる気を伸ば

し、また、御家庭の協力を得る
中で家庭学習の充実を図って参
りたいと思います。

さらに、本校では、ボランティア
活動を行っております。今年
も浜清掃と駅舎清掃を計画して
おります。今年度も十月に予定
している駅舎清掃の時、由良駅
舎清掃ボランティアの皆さんと
一緒に活動をさせていただきます
と思っております。よろしくお願
いします。

このようなことを始め、ふる
さとに誇りが持てるよう「ふる
さと学習」の講話、資源回収や
体育後援会賛助会員、職場体験
等地域の皆様に御協力をいただ
きながら、本校教育を一層推進
していきたいと思えます。これ
まで同様御理解と御協力を賜り
ますようお願い申し上げます。よ
ろしくお願い申し上げます。

思い出の由良小学校時代をふりかえりながら

栗田小学校 教頭 宮前一彦

栗田小学校に赴任しまして早三ヶ月が過ぎようとしています。由良小学校が栗田小学校と一つになって四年を迎えた今、

何度となく由良の地を訪れています。小学校は、別の施設に生まれ変わりましたが、丹後由良駅前の桜並木、奈具神社・由良神社などが、今もお悠久の歴史を感じさせてくれています。

さて、私が由良小学校に赴任したのは、昭和五十五年四月、二十二歳。初めての教職で何にもわからないままに、スタートを切り八年間過ごさせていただきました。その節には、地域の方々に言葉にできないほどのご指導、励ましとご厚情をいただきました。恩人ばかりの地域でした。

当時の児童数は確か百五十数

名で、一番多いクラスは、二年生の三十二名だったと記憶しています。

まず思い出しますのは、由良ヶ岳登山。当時の伝統ある全校児童の春の遠足でした。一年生で学校に入ったばかりでも、六百四十mあまりの山頂に上るという一つの試練でもありました。しかも弁当は、「おにぎり」のみ。毎年、何名かの新一年生は、あまりの辛さに、途中で「泣き出す」「いやがって、むずがる」ことが、しばしばありました。しかし異年齢班（縦割班）のみなの励ましで「最後は何とか頂上に登り立つ」というのが目標の一つでした。下山途中には、山菜（わらび・ぜんまい）を摘み、それを「ハクレイ酒造」に購入していただき、児童会の活動資金などにしていました。

次は、毎朝、始業前の「浜の子マラソン」、遊び場であった「浜の子トンネル」、夏の由良浜での「砂の造形」、秋の「収穫祭」。これらは、地域の特色や自然を生かした素晴らしい取り組みでした。数々の思い出とともに今も色あせることはありません。

あれから四十年近くの歳月が流れ、当時の教え子たちが、様々な困難に立ち向かいつつ、今の栗田小学校の保護者として活躍してくれています。大変喜ばしいことであり、心強く、うれしく思います。

栗田小学校の学校教育目標は「ふるさとに誇りを持ち、自ら学び、たくましく生きる子」の育成ですが、これは、由良地区から通学する児童にも十分共有できるものです。

由良小学校校歌「朝日に映ゆる由良の嶺 万波はるけき日本海・・・生い立つわれら望あり」と歌われております様にどんな変化にも対応できる、克服できるように願っているところで

す。

私自身浅学非才ながら、万葉集にもうたわれ、古くから偉人を多数輩出されてこられた由良地区を誇りに思い、すこしでも、お役に立ちたいと思っております。

今後とも、由良地区の皆様のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

写真

平成二十八年四月二十八日由良小学校体育館での「一年生歓迎遠足」の様子



地区の皆様へ

栗田中学校PTA会長 上羽貴志

由良地区の皆様には、日々より栗田中学校PTA活動にご理解とご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

今年度、PTA会長を務めさせて頂いていただくことになりました。よろしくお願い致します。

さて、新年度に入り、早五月には第一回目の資源回収を実施させて頂いていただきましたところ、地域の皆様のご協力を頂き、無事終える事ができました。又、賛助会員のお願ひにつきましても、多額のご支援を受け賜りまして厚くお礼申しあげます。

生徒数の減少に伴い、生徒のいない地区もあり、一部、地区の皆様にご迷惑をおかけしました事をこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

資源回収につきましては、十一月に第二回目を計画しておりますので、引き続きご協力をお願い致します。PTA・体育後援会活動においては、この資

源回収と賛助会の収入を主軸として運営しているのが現状です。皆様からご協力いただきました収益金は、生徒達の教育・体育活動に活用させていただきます。

又、今後の生徒達の活動、活躍ぶりは、中学校だよりにより随時ご報告させていただきます。子ども達の励みにもなりますので、どうぞご一読ください。

今年度、栗田中学校PTA活動方針として「地域・学校・家庭が一つになり、生徒の健全育成に努める。」を掲げさせていただきました。近年、子ども達を取り巻く環境は、急激に変化をきてきています。PTA活動の目的は子ども達が安全で楽しく、のびのびと学校生活、地域・社会生活を送れる事だと考えております。その為には、地域の皆様のご協力、連携なしには成り立ちません。今一度、地域・学校・家庭が一層強く連携し、子ども達の健全育成に努める事が肝要

と思われれます。これからも、栗田中学校の生徒達が充実した日々を過ごせると共に、大きく成長し活躍できるように、私自身、一年間頑張ら

ご挨拶

栗田小学校PTA副会長 川崎尚子

由良地区の皆様には、日頃より栗田小学校PTA活動にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度、PTA副会長を務めさせて頂いていただくことになりました。至らないことの多い私ですが、皆様のご指導・鞭撻を賜りながら、職務を全うしたいと考えております。一年間、よろしくお願い致します。

さて、栗田小学校は、この四月に十名の新入生を迎え、全校児童九十八名、うち由良地区から通学する児童は二十一名となりました。

小規模校ながらも、子供達には他校に引けを取らない様々な経験をさせたいと願っております。

せていただきますので、今後とも、由良地区の皆様が栗田中学校PTA活動へのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

すが、そのためには地域の皆様のお力が必要となります。

我が儘をお願いすることもあるかと思いますが、今後ともお一層のご協力をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。



就任のご挨拶

由良子供会連絡協議会 会長 野村 和之

新年度を迎え早や二か月過ぎ、初夏を思わせる日々が多くなってきました。

日頃より、由良地区の皆様には、子供会活動に温かいご支援とご協力を頂き、誠にありがとうございます。

今年度の子供会連絡協議会の会長を務めさせて頂くことになりました。子供会活動には参加していましたが、会長という立場は初めての事で、力不足ではございますが、精一杯取り組んでいきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

さて、子供たちが栗田小学校、栗田幼稚園に通い始めて、もう四年になりました。私には息子と娘がおり、初めは不安もあつたと思いますが、今では栗田の同級生と遊ぶのに、栗田へ行ったり栗田の子が由良へ遊びに来

たりと、仲良くなっています。子供達にとつて、由良・栗田という隔たりはなく、栗田小学校・栗田幼稚園の友達として勉強に遊びに賑やかな学校生活が送れている事と思います。

子供達は日々の生活の中で、新しい事を常に学んでいる事と思います。それは、栗田小学校へ通い栗田地区での交流や、登下校時の各地区の皆様との温かい見守りや声かけのおかげで、子供たちは、思いやりの心を持ち、明るく元気に成長をしていると思えます。

そして、地域での皆様の見守りがあるからこそ、子供達は毎日安心して学校へ通い、外で遊んだり出来ています。

本当にありがとうございます。

子供会としましても、地域の

皆様と一体となり、子供たちにとつて安全で、安心して生活が送れる地域になるように、出来る事をして行きたいと考えております。

さて、子供会の行事としましては、恒例の親子遠足を五月二十九日(日)に実施致しました。今回も全地区合同で行い、東映太秦映画村に行ってきました。

今回はバス二台になり、各地区相乗りで映画村に向う事になりました。子供達も今までと違う地区と乗る事で、車中でも楽しめたと思います。

映画村では、親子で楽しく過ごす時間や、子供達にとつては、いつもと違う環境で友達と遊ぶ事で、とても楽しい良い思い出になったと思います。

今後も、例年同様に当協議会また各地区での行事を、年間を通して予定しております。

ご支援・ご協力を宜しくお願い致します。

最後になりましたが、由良地



区の皆様には、これからも子供達を温かく見守って頂き、自然豊かなこの由良で、のびのびと成長できるよう、微力ながら頑張っていきますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

交通事故防止 (自分・家族・人を守る)

由良駐在所 浅尾 浩光

日頃より警察活動にご理解とご協力を賜り、誠に有り難うございます。

四月に着任して、既に二カ月が経ち、駐在所の任務にも慣れてまいりました。

皆様には、家族ともども温かく迎えて頂き、また、日頃から多くの御指導を頂いて、感謝しております。

今回は、公民館だよりに寄稿させていただく機会を得ましたので「交通事故防止」についてお話しします。

まず初めにみなさんは、「自動車は凶器になる」という認識はお持ちでしょうか。

自動車は手軽で便利な乗り物です。しかし、「少しの油断と操作ミスで人の命を奪い、人生を狂わせるものである。」ということを今一度考えてほしいと

思います。

私が以前勤務していた交番で大きな交通死亡事故がありました。

集団登校中の小学生と保護者に自動車が出っ込み、次々と撥ねて何人も人が死傷するという凄惨な交通事故であり、運転していた者は無免許でした。

この交通事故で、多くの不幸が生まれました。

被害者、運転者の家族は今でもその悲しみを背負っておられますし、交通事故を目撃した小学生達も心に深い傷を負ってしまいました。

私はその交番を異動するときには、その交通事故から四年が経っていました。毎朝、集団登校時に慰霊碑に悲しい顔で手を合わせる子ども達の姿を忘れる事ができません。

私達警察は、このような交通事故をゼロにするため、飲酒運転や無免許運転を厳しく取り締まっています。

しかしながら、未だにこれらの違反行為がなくならず、重大事故に繋がる事故は後を絶ちません。

「近くだから、少しだから」その油断が悲惨な結果を招くのです。

交通ルールをしっかり守ることと多くの交通事故は防止することができません。

交通事故は他人事ではありません。誰もが、加害者にも被害者にもなり得るのです。

もし、自動車を運転する際、自分に油断の心が芽生えそうであれば、大切な人の顔を思い浮かべて下さい。

また、皆さんの周りに、もし、飲酒運転や無免許運転をしている人がいれば、絶対に止めて下さい。

交通事故防止に向けて駐在所員として私も尽力しますので、

皆さんも十分に気を付けて下さい。



感謝

一日を通して過ごし良い毎日が続いていますが、目の前には暑い夏が控えています。

平成十七年四月から平成二十八年三月までの間、地区連絡所では、大変お世話になりました。不安もあつた中、自治連合会、公民館の方々には、色々な面で支えていただきました。午前中の二時間では、戸籍等、他の対応、午後の文書配達の準備、館内外の清掃、こちらは臨機応変に。あつという間に時間が終わってしまいます。

午後は、文書を持って由良中を走り回りました。暑い日、寒い日、雨や風、雪の日も少しでも配りました。時間が足りない事がよくありました。こうして一日、一週間、一年があつという間に過ぎていきました。

平成十七年度までは、公民館

吉田 あい子

の使用も有料で、外の駐車場も夏は海水浴のお客様の有料駐車場となり、管理が必要でした。

平成十八年度に入り、公民館は市の管理から変わり、国の条例となつた為、使用料もなくなりましたし、外の駐車場も公民館に用事がある以外は、停める事ができなくなりました。海水浴のお客様も日帰りが多くなつてきたのも感じるようになりました。列車で見えるのは、夏休みに入った学生さん達が目立ってきました。さらに、平成二十年代に入ると、海、宿泊とかの問い合わせも少なくなつてました。

インターネットで、何でも調べられる便利な社会です。由良でも観光案内する人はいらなくなっていました。熟年の方からの問い合わせは、以外とあつて、

由良ヶ嶽、足湯、由良の歴史について、やはり、歴史の事になると勉強不足も甚だしいのでいつも飯澤さんに助け船を出しました。パンフレットを送つて下さったり、満足されるのでしよう、必ず私の方にも礼の電話をもらいました。

こんな事の繰り返しの中で、人との繋がり、奥深い歴史の事等、勉強になりました。

十年一括り、世代交代は、少し前から感じていましたし、自分としても少し時間の余裕があつた方が良いなと思う様になり、今、本当にホツとしていますし、感謝の言葉に尽きます。

今のところ、贅沢に時間を使つて、チョット嬉しがっています。遊びながら畑に行つて夢中になり、夕方、地区のチャイムで時間を知らされます。何をしても今は気候が最高です。

気になる事は、今も余震の中にある熊本の方々、まだまだ一人の力も必要な東北の方々を思うと自然の怖さに心配は尽きま

せん。応援しています。最後になりましたが、地域の中で長い間仕事をさせていただいた事、本当にありがとうございました。

ありがとう



ゆらゆら散歩2

〜由良ヶ岳をくまなく歩こう〜

川端 純子

由良ヶ岳の一般登山ルートは由良の国民宿舎から登るルートと漆原から登るルートがあるが、今回は国民宿舎から登り、西峰から廃村嶽へ下山し、嶽から由良脇へ登り返すルートを歩いた時の記録を報告します。

人が歩かないこのルートは整備しても積雪があるたびに荒れるルートです。

十一月、雨の降る中、国民宿舎登山口から一般道で東峰、そして西峰へ。西峰の生い茂った草の間からいよいよ廃道歩きになる。少し下がった傾斜の緩やかな広い場所には舞鶴要塞関連の石の標柱がある。由良川対岸の建部山には舞鶴要塞の堡塁砲台跡が今でも残っているが、由良ヶ岳にも何らかの施設があったようだ。その後、傾斜が急になり、道の痕跡も見当たらない。

雨で滑りやすい道なき道を慎重に下る。その後、道が再び緩やかになった辺りには山椒の木が群生していて、何となく香りがするような感じがし(気のせい)、さわやかな気分になる。歩みを進めると踏み跡のしつかりした作業道のような広い道に出てくるが、倒木が横たわり、簡単には歩かせてもらえない。長老に話を聞くと若い時にはこの登山道をよく歩いたとのこと。道の分岐には木でできた「右由良ヶ岳」の標識が今でも立っていて趣がある。標識を過ぎ、由良石でできた小橋を渡ると嶽だ。一九七六年に廃村になった集落。嶽には廃屋が残っていたり、建物の土台やムロ跡がある。また、古い農機具や瓶類が放置されていて、人が住んでいた痕跡が残っている。嶽周辺は水が豊富で道

がぬかるんでいたりと、倒木も多いので、道からそれて棚田の上を歩いたりしながら進んでいく。道沿いの石段を上がると大嶽神社跡もあり、石灯籠などが残っている。集落跡を過ぎ、斜面に登るが、これも滑りやすいので注意が必要。

西峰から嶽、嶽から由良脇の廃道は踏み跡があつたりなかったりで、倒木をよけながら歩くなかなかワイルドな道のりだ。脇の薬師堂跡に下山し、みかん畑の農道をのどかな気分ですいて帰路についた。

由良ヶ岳を散歩していると山中に続く道を見つけたことがある。今は使われていないが、踏み跡のしつかりした道があちこちにあり、たどってみると山中に急に建物や祠が現れることもある。びつくりするが、毎回新たな発見があり、おもしろい。後日、由良に詳しい人にその建物や祠が何なのかを伺い、山中にも人が入っていた往時を偲ぶ。



次に歩いてみたいと興味を持って居るのは、石浦から由良ヶ岳東峰ルート。下石浦公民館から大迫川沿いの廃道をたどってみたが、すぐに倒木に歩く手を阻まれる。それでも上石浦方面へ道なき道を倒木をよけながらトラバースし、登山道があった谷筋に出た。しかし、ここでも倒木に周囲を囲まれ、標高二〇〇メートル付近であえなく撤退。上石浦からの廃道も始めのうちにはしつかりとした道だが、徐々に草木に覆われる。下からがだめなら上からと雪が下草を隠してくれる積雪時に東峰から三角点がある東由良ヶ岳まで下ってみたが、それより下は未踏。倒木をすべて覆い隠すような積雪があれば、是非このコースを再挑戦してみたい。

明治維新

中西 衛

明治維新からまもなく一五〇年になります。二一〇一八年で一五〇年です。明治維新とは何だったのか。この原動力は一点に尽きます。「欧米列強の植民地になってはならない。」これだけです。

まず、一八四〇年にアヘン戦争が始まりました。清から茶や絹、陶磁器を大量に輸入して、大幅な輸入超過になったイギリスは、植民地のインドで栽培したアヘンを清に密輸出する三角貿易で国富の流出を防いだわけです。アヘンを取り締まろうとした清との間で戦争になりましたが、近代的なイギリス軍の前に清はあっけなく敗れてしまいました。大人が子供を殴り倒すような戦いの後、清は一方的に香港島の領有を宣言されてしまい、抗議もむなしく一八四二年

八月、南京条約の締結によって香港の領有を確定されてしまいました。これを端緒として、清は列強からつぎつぎに不平等条約を飲まされ、国土は蚕食され、主権の生命線たる徴税権まで外国に押さええられていくわけです。

その様子を目の当たりにしていた日本で、「同じ目にあつたら小さな日本などひとたまりもないぞ。早く鎖国を解いて統一国家をつくり、欧米列強に追いつかなくてはならない。」と意思統一がなされていくのが幕末の動乱期です。最初は外国船を打ち払おうとしましたが、薩英戦争や馬関戦争を経て、これらとてもかなわないと認識するのです。

過去の日本をかなぐり捨てて、ヨーロッパと肩を並べるよ

うになろうと考えた。

一八六二年品川に建設中の英国公使館を焼き討ちしたのは、高杉晋作達、長州の仕業でした。一八六三年には馬関(下関)海峡を通行する外国商船や軍艦に大砲を打ち込んで、長州とイギリス、フランス、オランダ、アメリカの列強四カ国との間で馬関戦争がおこります。しかし、全然かなわない。たちまち決着がついて「攘夷など出来るはずがない。」と気付きました。開国して西洋に学ぶしかないごく短期間に理解した。

高杉晋作は、藩命を受けて秘密裡に上海に渡った時、西洋列強の軍事力と植民地にされた現地の様子を見えています。

倒幕を主張した吉田松陰が逮捕され刑死してからも彼の薫陶を受けた門下生が中心になって、攘夷など無意味であると感じて侃々諤々たる議論を重ねました。「世界はどうなっているんだ。日本はどうすべきか。清国の様子を見れば一目瞭然

だ。全くイギリスにはかなわない。打ち払うことができないから日本を西洋化するしかない。」新しく開国思想が始まった。長州は東シナ海を挟んで上海の対岸に位置するだけに世界情勢に敏感でした。尊王思想によつて、まずは単純に上位に向かいますが、そんなことをしていてもダメだと気がつくと変わり身が早い、「西洋列強に学ばなくてはいけない。留学生を送つて西洋の科学から制度まで学んでしまおう。」となったのです。

幕末、上海を見てきた高杉晋作をはじめとする長州の面々は強い危機感を抱きました。「もう徳川幕府ではだめだ。新しい政権を立てなくてはどうかしようもない。外国と条約を結んで対等にやつていくためには幕藩体制ではだめだ。」と考えるわけです。

大名連合のトップが徳川幕府だけれども、大名はそれぞれの両国を持ち独立国と言つていいような自治権を持っています

た。幕府が勝手に開国して貿易を独占しようとしていることになりす。列強としても、幕府が必ずしも日本を代表する政権ではないと気付きますから、個別に藩を切り崩していけば租界や租借地などいくらでもできるでしょう。まさに植民地化の危機でした。

水戸学に端を発する尊王攘夷思想が明治維新に大きな役割を果たした。水戸学とは水戸藩第二代藩主、水戸光圀由来の「大日本史」の編纂を目的に、日本古来の伝統を研究する学問です。藤田東湖が水戸学の大家としてよく知られている。

水戸の家臣と長州の家臣が通っていた剣術道場がほぼ一緒であった。数ある流派の中から神道無念流の道場で岡田一松の撃剣館、斎藤弥九郎の練兵館といったところに水戸藩士、長州藩士が集中していました。当時の道場では剣術に励むとともに学問がってきます。午前中は道場で稽古をして、午後は隣の

塾で学問をする文武両道です。だから水戸と長州と交流があったと思われす。攘夷、倒幕運動の中心人物として、吉田松陰、木戸孝允、伊東博文、高杉晋作、日下玄端、品川弥二郎などが有名です。

戊辰戦争になります。慶応四年（一八六八年）一月、鳥羽伏見の戦いで惨敗を喫した旧幕府軍は、大阪城に踏みとどまり戦いを続けようとしていた。ところが六日、將軍慶喜が将兵を見捨てて、開陽丸で江戸へ逃走してしまいました。

これにより勝利を確信した薩長をはじめとした西国諸藩連合は、徳川家と慶喜の処遇をめぐる議論を始めた。

七日、明治天皇による徳川家征討の大号令が下り西国諸藩は官軍となった。九日、天皇は有栖川熾仁親王を東征大総督に任命、徳川家の処分に関する全権を委任した。その下の大総督参謀には公家二名が就き、さらに下役にあたる下参謀の座に西郷

が補任された。むろん上位者はお飾りに過ぎないので徳川家を生かすも殺すも西郷次第となった。

二月十五日に京都を出発し、十日後に駿府についた。三月九日、勝海舟の意を受けた旗本の山岡鉄太郎が駿府の西郷の許を訪れ、慶喜が江戸城を出て上野寛永寺で謹慎恭順していると告げてきた。三月十三日、西郷は勝海舟と出会い、四月四日、江戸城引き渡し儀が行われた。

その当時、ヨーロッパに行くには船で優に一ヶ月はかかります。インド洋からスエズ運河を通過し、地中海を渡ってマルセイユに入り、そこから鉄道でパリに入るとというのがメインルートです。だから留学する人はみんな決死の覚悟でした。

幕末には幕府や各藩から、明治になると政府や民間の企業から人を出して色々な事を学ばせるのですが、優秀な人達が決死の覚悟で行っているわけですから吸収する力はものすごい。こ

の時代に優秀な人材が揃っていた事は間違いないでしょう。日本人は江戸時代から教育熱心だったこともあり、識字率も高かった事はよく知られています。しかも国を背負って学んでいるという気概があります。個人の栄達や名誉より、日本という国を近代国家にするのだという意識は非常に強かった。

留学生の行き先を見ると数が多かったのはアメリカです。航路が開かれたのが早かったから。

ただ、専門的な事を学ぶとなるとヨーロッパでした。医学ならドイツ、鉄道交通ならイギリス、社会制度ならフランスという風に、それぞれの分野の先進国へ留学生を送り込みました。当時のイギリスは鉄道網が発達した交通先進国でしたから今でいう国土交通省関係の役人達を留学させたのですが、おかげで今も自動車や左側通行という国はイギリス連邦と日本くらいしかありません。

明治になってもしばらくは近代的な教育制度が整っているわけではありませんから、頭のいい人、優秀な人の数は限られません。だから一人の人が何種類のことをやるのは明治の人にとって当たり前でした。「おまえはこれを学んで来い」と命じられると、もちろんその主目的は果たすわけですが、それ以外のさまざまな分野も学んでくる。実際、明治時代の人には「いったいこの人の本職は何だろう。」という人が沢山います。『森鷗外』、口語体の小説を書いた嗚矢となる人です。では、彼の本業といえば医師、医学者でした。

長州のすぐ隣、石見国津和野の出身で、東京大学医学部を出ると陸軍軍医になってドイツに留学、先進の医学を修めて帰国します。だから彼はまず医師、医学者であり、軍人であって文学者でした。軍医としては陸軍軍医総監という最高位まで上り詰めています。

森鷗外は陸軍中尉だったので

す。

最後は帝国博物館総長を務め、日本の文化財の保護、整理に力を尽くしました。

『新渡戸稲造』、少し前まで五千円札に描かれていた人です。盛岡藩士の三男に生まれた新渡戸稲造は札幌農学校（現北海道大学）で農学を学んで一旦は同庁に勤めますが、さらなる学問を志して東京大学に進み、アメリカに留学し、帰国して、自らも学んだ札幌農学校で教鞭をとります。そのころ貧しくて教育を受けられない若者のために男女共学の『遠友夜学校』を開きました。つまり、農学者で教育家で明治時代には珍しいクリスチャンでしたから宗教家としても有名です。後藤新平に請われて台湾に渡り、総督府で精糖産業の基礎を築きます。日清戦争で得た台湾を経済的に自立させるためにはどうすればいいかを研究して、サトウキビによる精糖産業を興すんです。国際的

に知名度の高い日本人だったので一九二〇年、国際連盟が設立された際、事務次長に選ばれている。

教育者として第一高等学校（現東大）校長や東京女子大学学長などを歴任したほか多くの学校設立にも関係している。

明治一年三月十四日に明治天皇が天地神明に誓った五箇条の御誓文が公布された。

一、広く会議を興し万機公論に決すべし

決すべし

一、上下心を一つにして盛んに

経綸を行うべし。

一、官武一途庶民に至る迄、各々

志を遂げ、人心をして倦ま

ざらしめん事を要す。

一、旧来の陋習を破り天地の公道に基づくべし。

道に基づくべし。

一、知識を世界に求め、大に皇

基を振起すべし。

独裁を否定して、政治参加の

拡大をはかる。

個人の能力を発揮できる社会

をつくり、先進国中心の国際社

会に参加して新知識を導入する

とともに、古い習慣にとらわれずに、その標準に従うという趣旨であった。

御誓文から七十八年後の昭和二十一年（一九四六年）、敗戦後、天皇は焦土と化した東京で、天皇の「人間宣言」として知られる「新日本建設に関する詔書」を発した。その中で昭和天皇は自らの発意でこの五箇条を引用し、こう続けた。

「朕は茲に誓を新にして国運を開かんと欲す。須らく此の御趣旨に則り旧来の陋習を去り民意を暢達し、官民挙げて平和主義に徹し、教養豊かに文化を築き、以て民主の向上を図り、新日本を建設すべし。」と。御誓文はその構想として再び揚げられたのである。

参考図書

浅田 二郎

「日本の運命について語ろう」

由良が光り輝いていた時代(2)

由良の歴史をさぐる会 加藤 正一

【資料編 No.2】「千軒〇〇」

①千軒長者

「さんしょうだゆう」について塩谷千恵子氏のまとめによると寛永十六年(一六三九)説経『さんせう太夫』を初めとして以下説経、浄瑠璃、歌舞伎と宝暦十一年(一七六一)浄瑠璃「由



良湊千軒長者」までの三十二件

が記されています。天保十四年(一八四三)の「由良湊長者咄」には「丹後の国由良の湊 千軒長者と呼ばれし三荘大夫二曹子非道・・」云々。とあり、この話では千軒長者は三荘大夫その人のことを示している。しかし由良小学校に保管されていた教本(修身)の「田辺孝子伝」には、由良の湊千軒長者と呼びはやすほどの繁昌の土地なりけるに、と記載されている。(公民館だより第一五六号)

②「由良ノ荘 千軒ト云・・!」

「丹後国加佐郡旧語集」万延二年(一八六一)の由良村の項に 由良ノ荘千軒ト云大村也、分テ云ハ村数五ヶ村ノ名有。

由良ノ荘千軒ト云大村也、を私なりに解釈をしますと千軒も

あるような豊かな大きな村の意と考えます。

この頃の由良村には千軒もなぐ以下の理由によって三〇〇〜四〇〇軒くらいと考えています。

(各戸にくばられている由良の歴史年表(四十四ページ)に弘化二年(一八四五)の人口二二〇〇人と記されています。

この時代は大家族と考え一家族六〜七人とすると三〇〇〜三五〇軒となる。

田辺藩土目録 文化三年(一八〇六)によると、

・由良村 米高 六三〇石六斗三升五合

・石浦村 米高 一〇〇石

石浦、由良併せて米高約七三〇石、記録から税金が五公五民(半分税金)とすると生産者(村)

が得られる米は半分の三五〇石となり一軒当たり約一石と言う事となる。

「由良村の住人多過ぎ!」

江戸時代成人一人一年で米一石(一五〇キロ)必要と云われて

ます。由良村は米だけですと、せいぜい成人三六五人が養えるに過ぎない。主食を米半分、雑穀半分としても倍の七三〇人が食べていくのが精いっぱいと考えられる。これに食べる量が少ない子供、年寄を加味しても人口一九〇〇人〜二二〇〇人は養える限界を超えている! 次のデータからも解るように石高に對し他の村と比べ由良、神崎は極端に人数が多い。

村	石高 文化3年 (1806)	軒数 延享3年 (1746)	人数 延享5年 (1748)	1人当 たりの 米量
田辺藩				
行志有上由神	1067	117	699	0.76
永高路安良崎	753	95	602	0.63
	746	141	696	0.54
	649	87	414	0.79
	732	392	1973	0.19
	129	137	794	0.08

「由良村の住民は水飲み…?」

この表を見れば明らかのように行永村、志高村、上安村などは一人当たり米0.7石程度あり、子供などを考慮するとなんとか一般的な条件で養える人数である。ところが由良・神崎は一人当たり米0.19・0.08石程度となり、どう考えても養える人数ではないことがわかる。実際にこれだけの人が暮らしていたとするとそれだけの人々を養える経済力が米・雑穀以外にもあったことが考えられる。その経済力とは？

それは「塩」

・丹後国加佐郡寺社町在舊記 享保十六年(一七三二) 往昔より塩焼経営塩浜の体 東西式〇町に及びて・塩屋塩窯 その数しらずとあります。 又

・田辺藩土目録抄 延享三年(二七四六)(由良はかつて田辺藩) 塩浜長さ六一三間(約1.1km) 釜屋数 一九七軒 田辺藩土目録 文化三年

(一八〇六)によると塩浜運上(税金)は、由良、銀二貫

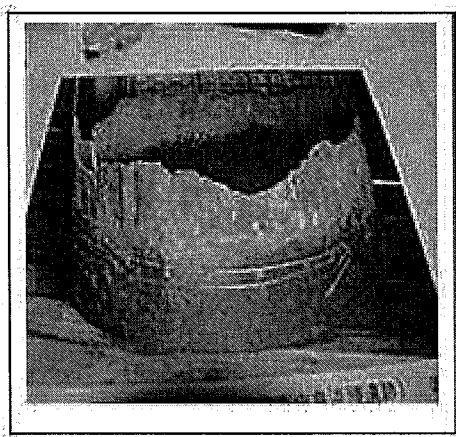
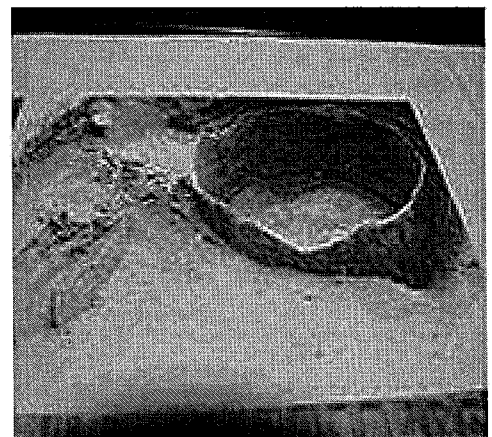
六四二匁二分、約四四〇両となる。塩も税金が五公五民とする。と生産者の取り分四四〇両、概略米一石二匁として四四〇両が米四百四十石となり米と塩で計八〇五石相当になる。米半分、雑穀半分なら一六〇〇石になり、計算上子供を含めた人数二一〇〇人の生活は何とか成り立つことになる。しかし、塩・米・雑穀を加えてもカツカツでは「千軒と云う大村(豊かな村)とは言えない」塩以外にさらに経済的な要素が必要である。

京都府立郷土資料館発行「ふるさとの塩づくり」によると由良の塩は二斗俵であるので一年一戸で造る塩は天候にもよるが七〇から一〇〇俵ぐらいであり、「文久三年(一八六三)「五番萬集録」に福知山塩問屋が扱った塩の量 一年間合計 十州塩(西塩)三八四八俵 由良、神崎(地塩)一〇四七〇俵 この記述より由良で造られる

塩の相当部分や十州塩が大量に福知山に運ばれていたことが判る(十州塩とは瀬戸内海地方の塩)これだけの塩を運ぶには舟運以外考えられない。これももう一つの経済的要素、と考えられる(詳細は後日)

由良の塩遺跡(小谷一郎氏著)

「昭和四十七年七月、枘岡氏宅の新築工事現場で深さ約60cmの土中に、桶状の結晶が発見された。これは直径1.2m、深さ60cm、底の直径1m、厚さ1.3cmの桶状を呈し、この結晶体の外側にあったと見られる木製の桶は既に腐食し、ただ桶状の外側の面に木目がついているのが認められた。これと共に、直径1m、深さ50cm、厚さ1cmの石灰質の固まったものが約20cm離れた箇所から発見された、これは製塩に使った竈の炉部分」と記述されている。



(一九七二年七月一八日撮影) (由良郷土館に保存)

由良の製塩は明治三十八年に塩の専売法が実施され、明治四十三年九月限りで廃絶するに至った。

「寺社・その他編No.2」
下石浦 住吉神社

江戸古文書に記載あり！

「丹後国加佐郡寺社町在舊記
享保一六年（一七三二）

「川筋西に続いて石浦村 往
古由良を割きたりと云ふ 住吉
大名神社あり この村中の氏神
なり。」住吉神社は江戸中期に
は既に存在していた事がわか
る。
鳥居をくぐり抜けて草と落ち



葉に覆われた旧参道を行くと、
笏谷石（福井の青石）の石段が
現れる。

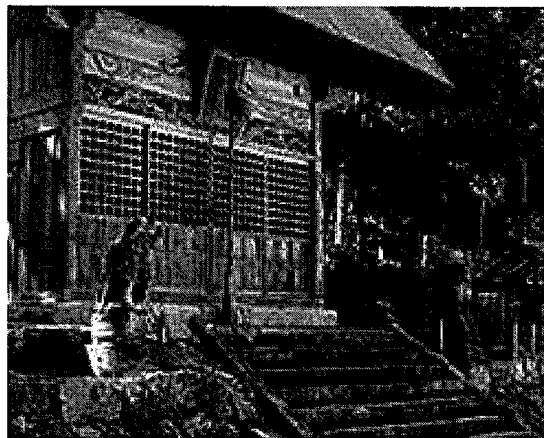
長屋門を通ると広場の奥に本
殿の覆い屋の前に出る。この長
屋門が珍しい。通路の一方に立
てかけられている渡り板を倒す
と、長屋門三間舞台となり、こ
こで奉納舞でも行われても不思議はない。

又覆い屋の前に正座した狛犬
一対が向き合うのではなく、正
面を向いて見張っている

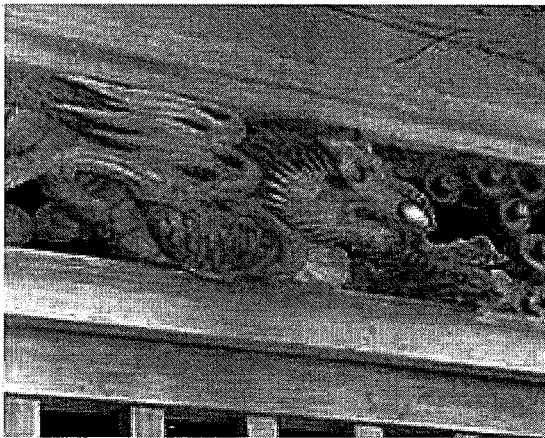


覆い屋内本殿前の阿吽の狛犬

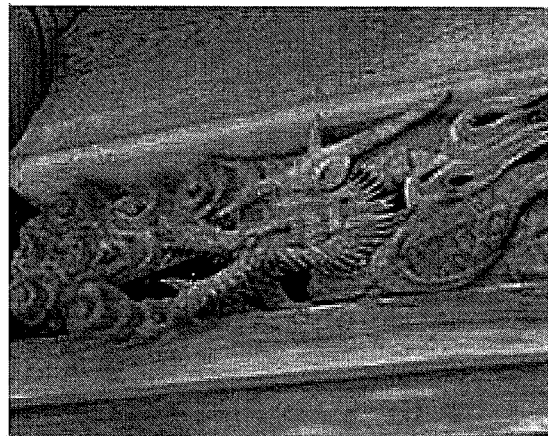
本殿覆い屋の欄間に双竜の彫り
物あり、



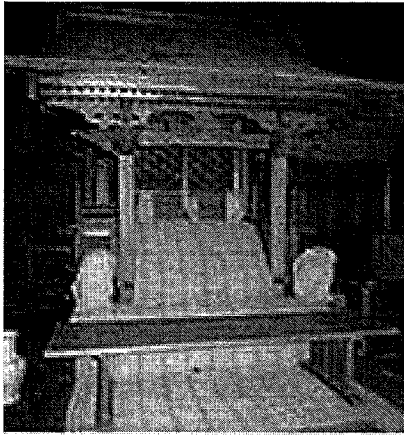
左龍 左眼には玉石がある。



右龍 右眼に玉石はない。



完成すると後は崩れるのみと
言う事で、未完成の部分を残す
日光の陽明門と同じ狙いが込め
られているのでは？
本殿の前に神殿狛犬二対あり



上段の小型狛犬

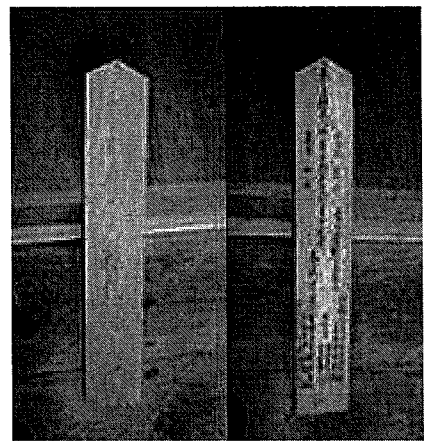
狛犬の研究者によると笏谷石製で十八世紀頃（江戸中期）の作と思われるとのことである。



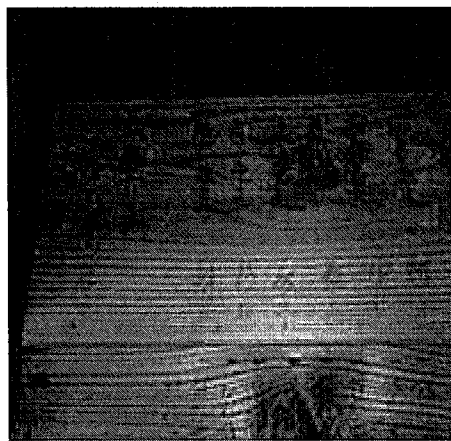
両方の台座裏に墨書あり。宝暦五年（一七五五）？扱い注意！



棟札 弘化三年（一八四六）



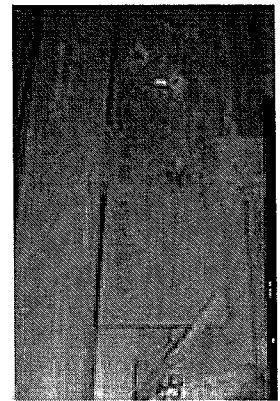
天保十年（一八三九）



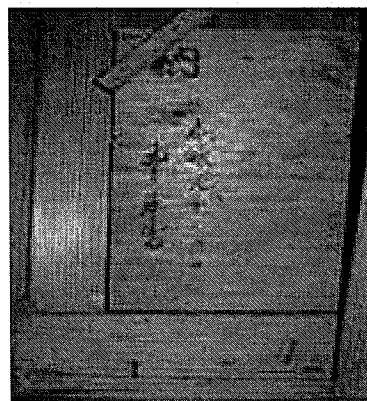
覆い屋の内部に残されている寄進札・奉納札

天保十年（一八三九）
弘化三年（一八四六）
嘉永元年（一八四八）
安政三年（一八五六）

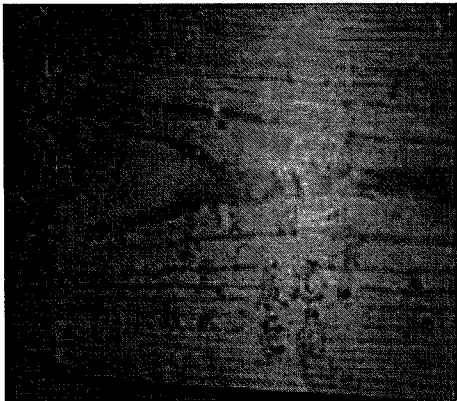
安政三年（一八五六）



嘉永元年（一八四三）



弘化三年（一八四六）



ご祭神・ご神徳（御利益）
住吉神社は全国で約二〇〇〇社以上祭られているとのこと。総本宮は大阪の住吉大社と云われる。だとすればご祭神は、底筒男命、中筒男命、表筒男命、と言われる三柱の神である。ご神徳はお祓い・航海安全・和歌の道・産業育成で特に「海の神」「お祓いの神」として崇敬されている。

弘化三年（一八四六）の棟札や寄進札より古い寄進札、天保十年（一八三九）が見つかり棟札弘化三年の建物より前にも建物があった事がわかる。由良の寺社の中でもこのように多数の江戸時代の寄進札、奉納札が残っているのは上石浦、下石浦の神社が抜きんでている。

本神社の御神徳は「航海安全」でもあり由良川舟運、北前船に係っていた人の寄進札もあるのかもしれない。又この地区にも船簞笥をお持ちのお宅もあり、かなりの人が船に係わっていたと思われる。今後船に関係する

資料が見つかる事を願う。

下石浦 重要な歴史遺産 高札「五榜の掲示」

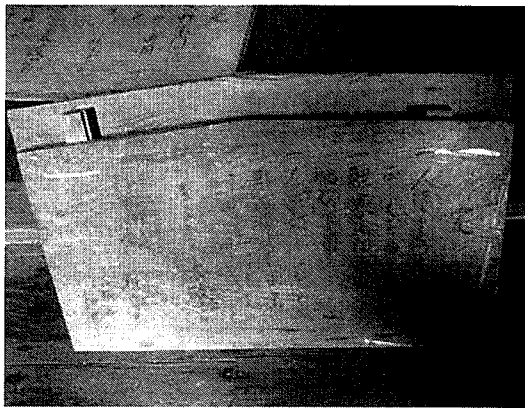
明治新政府は明治元年三月
一五日、旧幕府の高札一切を撤
去せし、代わって「五榜の掲示」
と呼ばれる高札を立てさせた。
新政府もまた従来の道徳を維持
することを表明したもので、注
目すべきは太政官であり舞鶴藩
知事名が新時代を主張してい
る。

下石浦の住吉神社には江戸時
代の寄進札、奉納札以外にも貴
重な「五榜の掲示」が三札も保
存されており、和江の丸田神社
に二札（第一札・第二札）ある
ようですが、三札も残されてい
るのは石浦の住吉神社において
他（旧田辺藩地区内）には無い
のではなからうか。保存状態は
文字が薄くなっているが比較的
良いと言えらる。おしむらくは覆
い屋の中に保管されており、扉
の格子の外からは見る事ができ
ない。大勢の方に見る機会が設

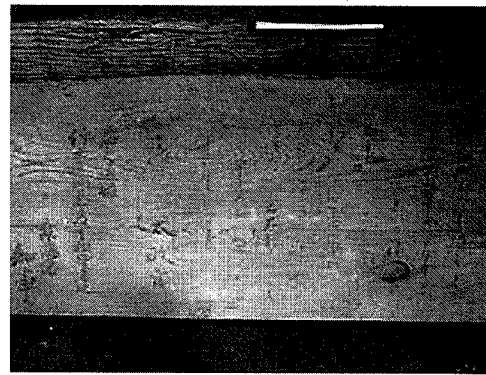
けられる事を望む。また、保存
されていた古文書も専門家によ
り丁寧に掃除され保管箱に入れ
てもらったが、整理解読される
日が来る事が期待される。

五榜の掲示

- 第一札 五倫道徳尊守
- 第二札 徒党・強訴・逃散禁止
- 第三札 切支丹・邪宗門厳禁
- 第四札 万国公法履行
- 第五札 郷村脱走禁止



第二札 徒党・強訴・逃散禁止



第三札 切支丹・邪宗門厳禁



定（第一札）

- 一 人タルモノ五倫ノ道ヲ正シク
シヘキ事
- 一 鰥寡孤独廢疾ノモノヲ憐レム
ヘキ事

一 人ヲ殺シ家ヲ焼キ財ヲ盗ム等
ノ悪業アル間敷事
慶長四年三月 太政官右
之條々被
仰出之間急度可相守者也
舞鶴藩 知事

定（第二札）

何事ニ由ラス宣シカラザル事ニ大
勢申合セ徒黨ト唱ヘ 徒黨シテ強
テ願ヒ事企ルヲ強訴トイヒ 或ハ
申合セ居町居村ヲ立退キ候ヲ逃散
ト申ス 硬ク御法度タリ 若右類
ノ儀之レアラバ早々其筋ノ筋ノ役
所申出ヘシ御褒美下サルヘク事
慶應四年三月 太政官
右之條々被仰出之間急度可相守者
也
舞鶴藩 知事

定（第三札）

一 切支丹宗門ノ儀ハ 是迄御制
禁之通固ク可相守事
一 邪宗門之儀ハ固ク禁止候事慶
應四年三月 太政官
右之條々 被仰出之間急度可相守
者也
舞鶴藩 知事

短歌

耕本 清

独り身は野菜作りて毎日の

ひと手間かけて食卓豊

山白し綿雪ふんわり降り積もり

駅前の桜雪の花咲く

久々に故郷越後訪ぬれば

幼き友人話はずきじ

春近し水曜クラブの仲間たち

スポーツ楽しみ長寿目ざそう

由良岳望む校舎は建ち替り

安寿の里は竣工真近し

平成27年度 宮津市人権標語入賞作品

いじめゼロ みんなのえがお 晴れマーク (小学4年生)

おもいやり 最初の一步 救いの手 (小学5年生)

おもいやり きみにもできる プレゼント (小学6年生)

編集後記

二〇一六(H28)六月

このたびの九州地方の災害で被災された皆様には心からお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧をお祈りいたします。

駅前通りの桜が満開のころ、栗田幼稚園に九名の園児が、栗田小学校に十名の児童が、栗田中学校には二十四名の生徒が誕生しました。

おめでとございます。新しい環境に早く慣れ、勉強やスポーツに頑張ってください。

地区内では、田植えも終わり農家の方々は少し休息をされている頃でしょう。

今年の夏は、「猛暑」と氣象予報士が発表しています。早めの準備が必要となりますでしょう。

(枝川)